

健康を大切に。環境を大切に。

No.

13

2017.1

中部公衆だより



Photo: 松源寺の柿すだれ
井伊直虎にゆかりがあるお寺として、最近話題となっています



一般財団法人
中部公衆医学研究所

年頭挨拶

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えした
ことと、お慶び申し上げます。



当研究所に於いても、皆様方のご要望に応えるよう

「明るく、正確、親切に」をモットーにサービスの向上に努めてまいります。

昨年は、ハード面に於いて検査用イオンクロマト、BOD分析器の購入等を行い、また2年間に亘る健診システムと画像サーバーの更新等を行い、ご要望に添えるよう対応を致しました。

今後も「環境を大切に、健康を大切に」の公益事業の使命を果たしていく所存でございます。

本年も皆様方のご協力をお願い申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。

理事長 横山 信之

資格取得者が更に増えました。

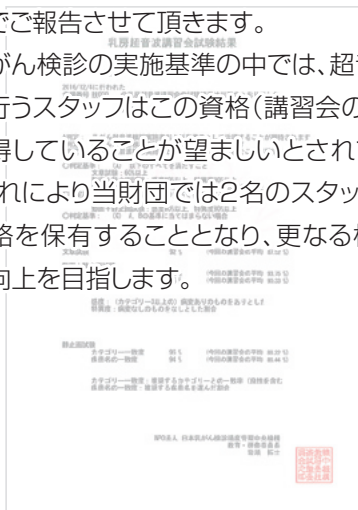
乳房超音波講習会試験 合格認定

健康づくり部 健診技術係

胡桃澤 恵

前号でもこの資格の取得をご紹介させていただきましたが、更にもう1名取得に成功致しましたのでご報告させていただきます。

乳がん検診の実施基準の中では、超音波検診を行うスタッフはこの資格(講習会の終了)を取得していることが望ましいとされています。これにより当財団では2名のスタッフがこの資格を保有することとなり、更なる検査精度の向上を目指します。



作業環境測定士1種 (有機、粉じん、特化、金属)

環境衛生部

木下 雅美
小澤 佳之

労働安全衛生法では、指定された有害物質等を取り扱う作業場では定期的に環境測定を行い、分析・評価し、その結果を保存しなくてはならないとされています。この測定の一連の業務の全てを行えるスタッフが、この度2名増えました。

この資格取得には、化学物質の物性や有害性に関する知識、そして分析技術も取得していることは勿論、各関連法令にも精通していることが必要とされます。作業環境測定に関すること以外でも結構ですので、化学物質等の取り扱いでお困りのことがございましたら、何なりと当財団作業環境測定士へお問い合わせください。

オルトートルイジンが特定化学物質 第2類物質に追加されました



一般財団法人 中部公衆医学研究所
医師 牧野 茂徳

福井県の化学工場における膀胱がん発症事例の調査などから、職業がんを予防するためにオルトートルイジンが規制されることとなり、特定化学物質障害予防規則等が改正されました。平成29年1月1日から施行されました。

オルトートルイジンは特定化学物質(第2類物質)の特定第2類物質に指定され、作業主任者の選任、作業環境測定の実施、特殊健康診断の実施が義務付けられました。そして、特別管理物質として、作業環境測定結果、健康診断結果、作業記録等の30年間の保存が義務付けられます。

また、膀胱がん発症事例の調査からオルトートルイジンが労働者の皮膚に接触し、長期間にわたり労働者の皮膚から吸収されていたことが明らかとなり、経皮吸収対策が図られることとなりました。このために、労働者の身体が第1類物質あるいは第2類物質に汚染された場合は、身体を洗浄し、汚染を除去することとなりました。また、保護眼鏡、不浸透性の保護衣、保護手袋及び保護長靴を備え付けることとなりました。

オルトートルイジンについての健康診断項目について、少し見てみたいと思います。

オルトートルイジンを製造または取り扱う業務に常時従事する労働者に対して雇入れの際とその後6月ごとに1回定期的に、医師による特殊健康診断を実施することとなっています。

一次健康診断の項目

- (1)業務の経歴の調査
- (2)作業条件の簡易な調査
- (3)オルトートルイジンによる頭重、頭痛、めまい、倦怠感、疲労感、顔面蒼白、チアノーゼ、心悸亢進、尿の着色、血尿、頻尿、排尿痛等の他覚的症状または自覚症状の既往歴の有無の検査
- (4)頭重、頭痛、めまい、倦怠感、疲労感、顔面蒼白、チアノーゼ、心悸亢進、尿の着色、血尿、頻尿、排尿痛等の他覚的症状または自覚症状の有無の検査
- (5)尿中の潜血検査
- (6)医師が必要と認める場合は尿中のオルトートルイジンの量の検査、尿沈渣検鏡または尿沈渣のパパニコラ法による細胞診の検査

二次健康診断の項目

- (1)作業条件の調査
- (2)医師が必要と認める場合は、膀胱鏡検査、腹部超音波検査、尿路造影等の画像検査、または赤血球数、網状赤血球数、メトヘモグロビンの量等の赤血球系の血液検査

以上となっています。

参考資料

厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp>



乳がん検診について

日本人女性の12人に1人が生涯のうちに発生

30～60歳代の日本人女性がかかるがんのトップは乳がんです。年間約7万人の女性が乳がんの告知を受けていて、年々増加傾向にあります。

日本人女性の乳がん死亡者数は1万人超に

日本人女性で最も亡くなる人が多いがんは、大腸がん。以下肺がん、胃がん、すい臓がんと続き、乳がんの死亡率は第5位です。罹患数が最も多い乳がんですが、死亡する率は低いがんなのです。つまり乳がんは早期発見によって適切な治療を受ければ、ほとんどの場合、生命に影響を及ぼさずに済む病気なのです。しかし、患者数の増加に伴い、死亡者数も増加しています。

乳がんになりやすい因子

- 出産経験がない
- 授乳経験がない
- 母親、姉妹など家族に乳がんになった人がいる
- 乳がんや良性の乳腺疾患になったことがある
- 初産年齢が30歳以上
- 身長が高い
- 肥満(閉経後)
- 初潮年齢が早い
- 閉経年齢が遅い
- 生まれた時の体重が重い
- 飲酒量が多い
- たばこを吸う など

乳がん検査におけるマンモグラフィと超音波の特徴

マンモグラフィ

上下と左右から乳房を板ではさみ、X線装置で撮影します。広範囲に撮影ができ、がんの初期段階である、微細な石灰化を発見することができます。

若い女性は乳腺が多く、乳腺とがんの区別がしにくいので向きません。個人差はありますが多少の痛みは伴います。生理直後の受診がおすすめです。

X線の量はごくわずかです。被ばくによる危険性はほとんどありません。



超音波検査

乳房に専用のゼリーを塗って、携帯電話くらいの大きさの器械をあてて、モニターで画像を確認していく検査です。

手で触れただけでは判別しづらいしこりを発見することができます。痛みや被ばくはありませんが、微細な石灰化は発見しにくいです。乳腺の多い若い女性でもしこりを発見することが可能です。



最後に...

日本の乳がん検診受診率は43.4%と、非常に低い水準です。積極的に乳がん検診を受けましょう。また、乳がんは自己発見率が高いのが特徴です。実際に、乳がん患者さんの50%以上は、自己発見、つまり自分で乳房の変化に気づいて受診しています。月に1回は見て、触ってセルフチェックを行いましょう。



昨年は、身近では御柱祭りがあり、世界的にはリオオリンピック・パラリンピックで日本選手の活躍に喚起した反面、またもや大地震、台風、豪雨など多くの災害にみまわれました。今年こそは穏やかな一年になることを祈りたいものです。皆様におかれましてはよい年となりますよう心よりお祈りいたします。

中部公衆だより
第13号

発行

一般財団法人 中部公衆医学研究所 〒395-0051 長野県飯田市高羽町6丁目2-2
電話(0265)24-1777(代表) FAX(0265)24-2330 <http://www.chubukosyu.or.jp>
健康づくり部 企画情報課:(0265)24-1505 健康相談課:(0265)24-1507 環境衛生部:(0265)24-1509